

2019年12月期（第106期） 決算概要資料

日華化学株式会社
(証券コード：4463)

2020年2月13日

1. 2019年度 業績

2019年度 決算サマリー	4
セグメント別業績	5
2019年度の経営環境	6
売上高増減要因(対前年)	7
経常利益増減要因(対前年)	8
化学品セグメント 業績詳細	9
化粧品セグメント 業績詳細	10
設備投資／特別損益の概要	11
連結キャッシュフロー	12
主な経営指標	13
トピックス	14～19

2. 2020年度 業績予想

2020年度の経営環境想定	22
通期業績予想	23
セグメント別 通期業績予想	24
設備投資計画	25

3. 参考情報

財務データ等推移	27
事業別・所在地別 売上高比率	28
会社概要	29

2019年度 業績

- 売上高は前年度比△40億円で3年ぶりの減収。それに伴い営業利益・経常利益とも約4割減、親会社株主に帰属する当期純利益は前年の固定資産譲渡益の影響もあり約6割減

単位：百万円

	2018年度	2019年度	前期比	
			増減額	増減率
売上高	50,188	46,191	△3,997	△8.0%
営業利益 (営業利益率)	2,301 4.6%	1,395 3.0%	△905	△39.4%
経常利益	2,430	1,334	△1,095	△45.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,458	900	△1,557	△63.4%
年間配当 (円) [※]	16	16	0	—

※期末配当 8 円については3月26日開催の株主総会で決議予定

- 化学品事業は売上高△16.1億円(△4.5%)減収、セグメント利益は△4.6億円(△24.4%)減益
化粧品事業は売上高△25.8億円(△18.4%)減収、セグメント利益は△6億円(△26.2%)減益

単位：百万円

セグメント	2018年度		2019年度		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	35,502	1,905	33,890	1,441	△1,612	△4.5%	△464	△24.4%
化粧品	13,977	2,285	11,399	1,687	△2,578	△18.4%	△598	△26.2%
その他	708	63	901	99	+192	+27.2%	+36	+56.9%
消去等	-	-1,952	-	-1,831	-	-	+120	-
合 計	50,188	2,301	46,191	1,395	△3,997	△8.0%	△905	△39.4%

■外部環境

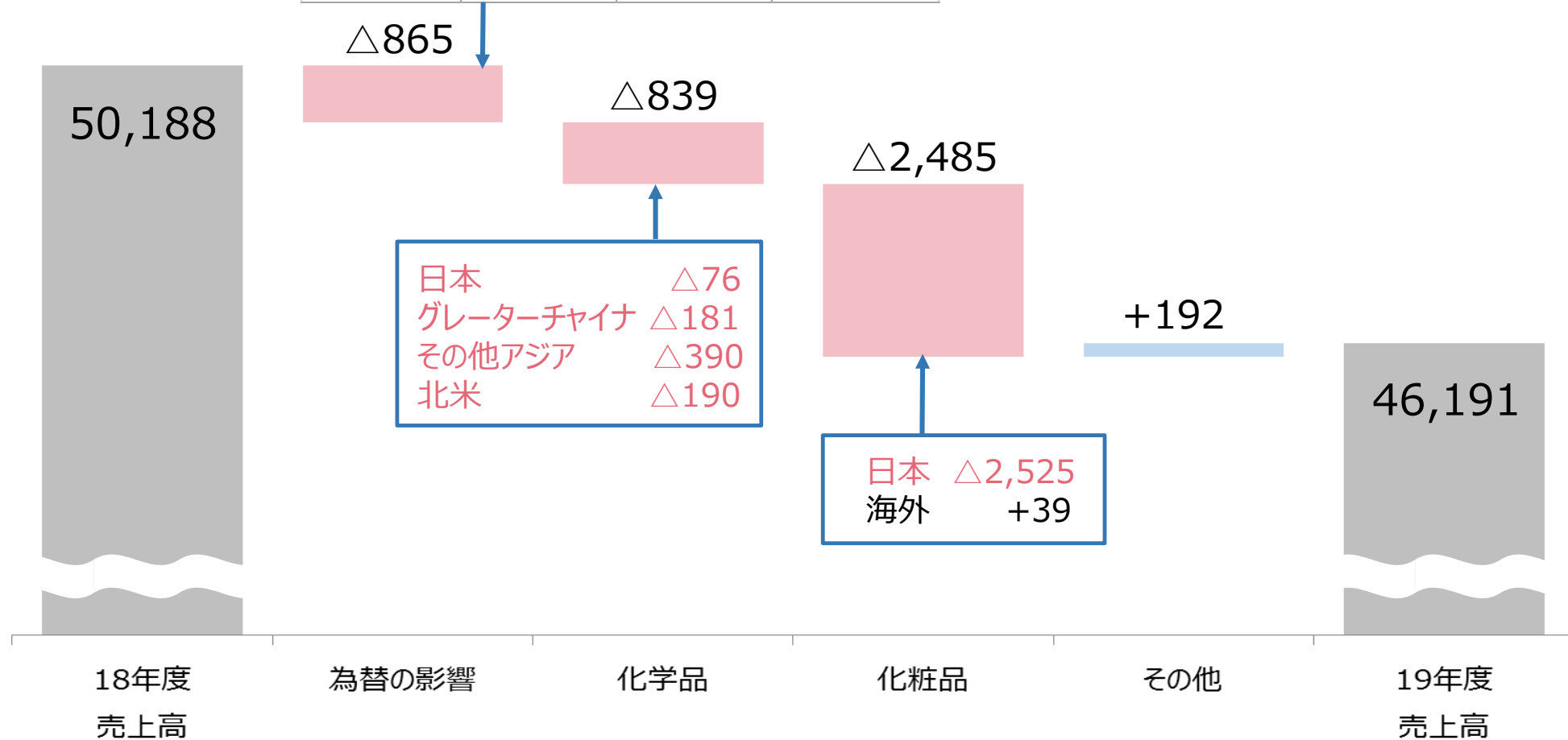
○ - × : 環境・影響の評価

米中貿易摩擦	日本	-	米中貿易摩擦を基点とした世界経済減速懸念から製造業中心に下押し圧力
	海外各国	×	中国等景気鈍化・繊維産業軟調、関税増・調達コスト増による原料高騰
自動車販売不振	海外各国	×	中国△9.6%（△228万台）、米国△10.1%（△54万台）、インド△12.7%（△43万台） ※いずれも乗用車分
暖冬	日本、海外各国	×	冬物衣料用繊維加工大幅低下
環境規制強化	各国	× ○	中国原材料入手困難化・コスト増、環境対応意識向上
消費税増税	日本	-	小売業で増税前の駆け込み需要があったものの反動減が戻りきらず
その他	韓国、日本	×	韓国は景気軟調に加えて日韓関係の影響が多方面に渡る
	ベトナム	○	経済成長継続
数値指標 (前年比)	為替	×	円/米ドル・109.37円で1.1%円高。中国元5%、ウォンは6.4%円高
	ナフサ	○	Q平均42,025円で△17.7%下落

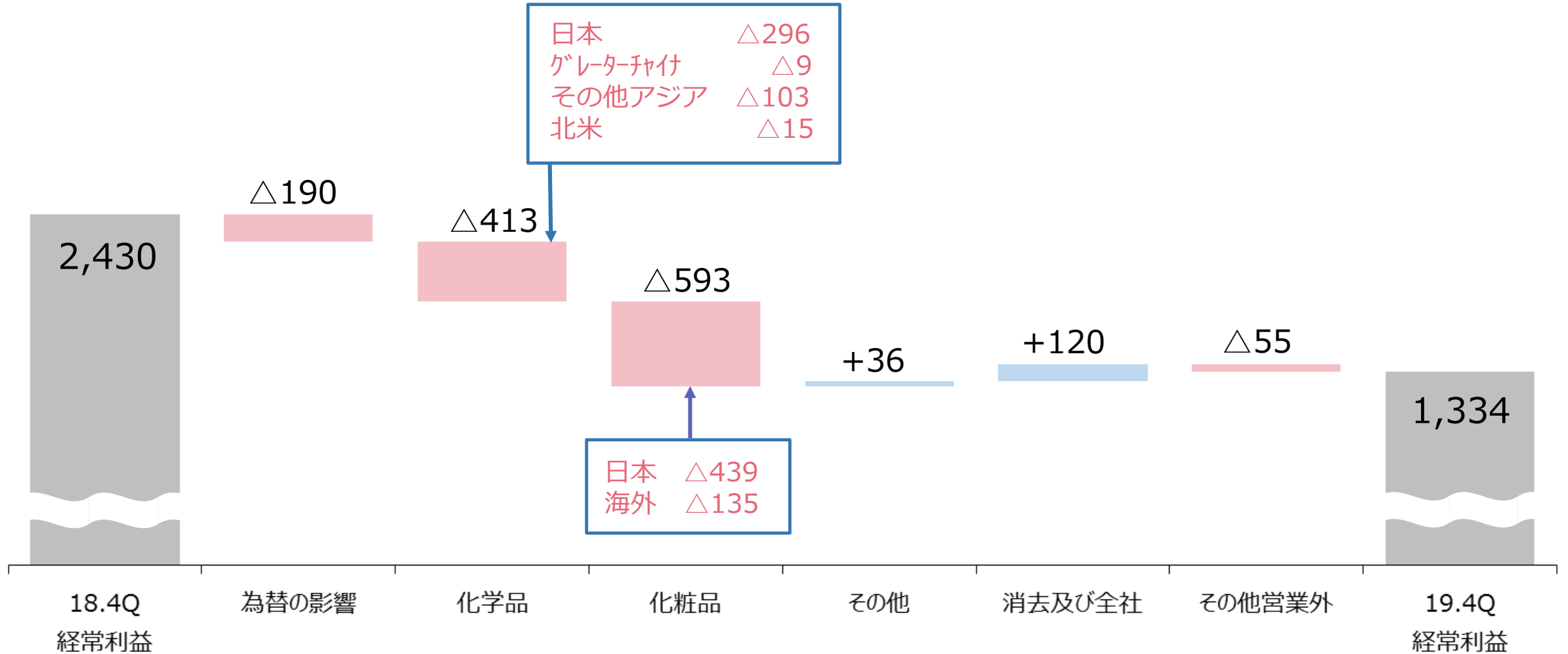
■ 円高による影響で△8.7億円、化学品事業で△8.4億円、化粧品事業で△24.9億円の減収

単位：円

期間為替	18年度	19年度	備考
米ドル	110.56	109.37	1.1%円高
中国元	16.675	15.837	5.0%円高

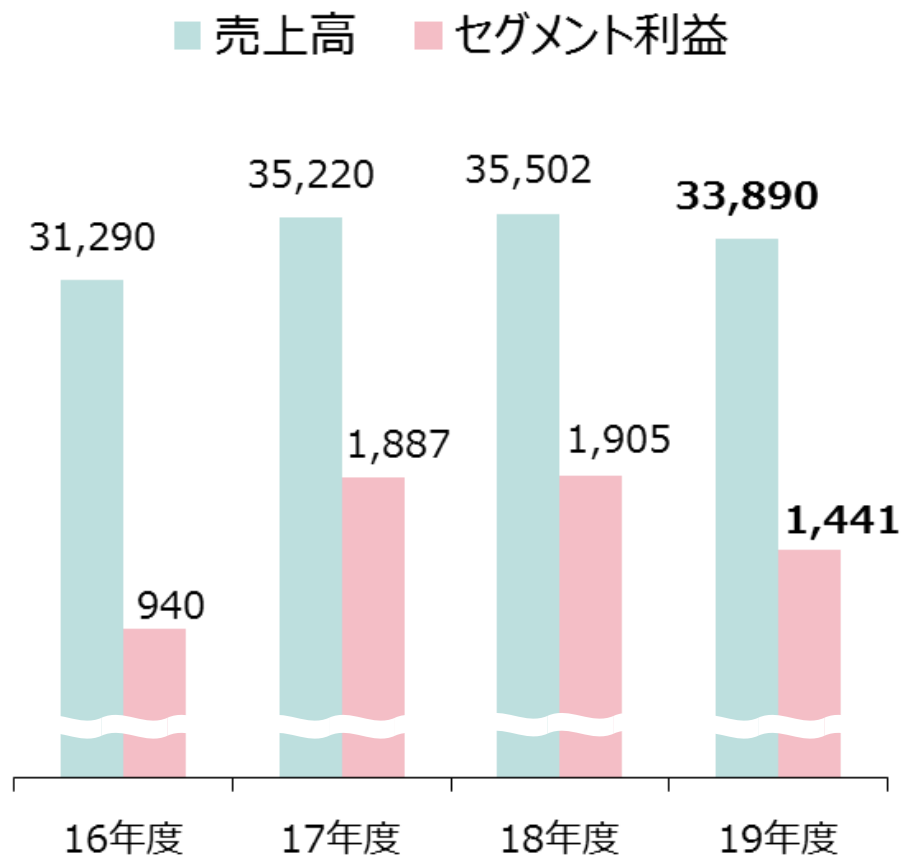


■ 円高による影響で△1.9億円、化学品事業で△4.1億円、化粧品事業で△5.9億円の減益。
減価償却費は2.5億円増。



業績推移

単位：百万円



地域別売上高	18年度	19年度	増減額	増減率
日 本	14,421	14,345	△76	△0.5%
グレートチャイナ	10,561	9,919	△642	△6.1%
その他アジア	9,017	8,328	△688	△7.6%
北 米	1,503	1,297	△205	△13.7%
合 計	35,502	33,890	△1,612	△4.5%

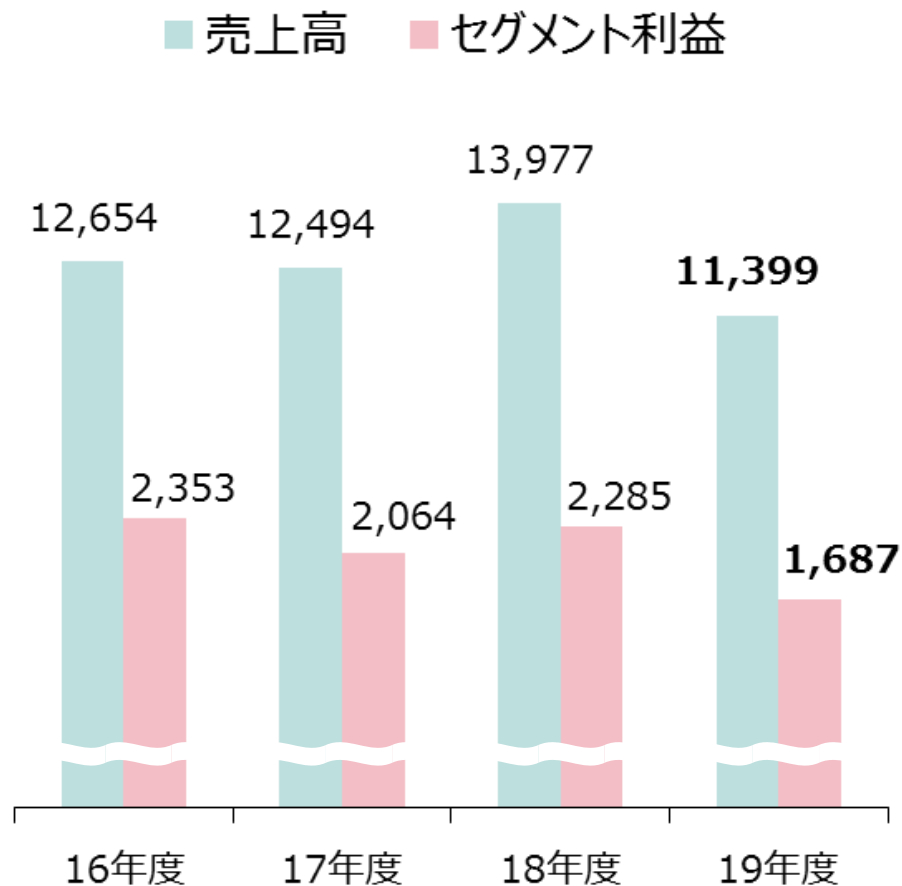
※為替影響 △772百万円

前期比概要

1. 中国／米中貿易摩擦を含め市況厳しく、環境規制強化も影響し減収減益
2. 各国／'18-19暖冬による繊維製品市場在庫過多による繊維加工減の影響で減収
3. 各国／自動車販売不調でカーシート向け需要減少
4. アジア／対アジア通貨円高による減収減益
5. ベトナム・バングラデシュ／繊維産業成長・開拓により好調
6. 国内／業務用クリーニング薬剤(リネサプライ)販売好調

業績推移

単位：百万円



地域別売上高	18年度	19年度	増減額	増減率
日本	12,558	10,033	△2,525	△20.1%
海外	1,418	1,365	△52	△3.7%
合計	13,977	11,399	△2,578	△18.4%

※為替影響 △92百万円

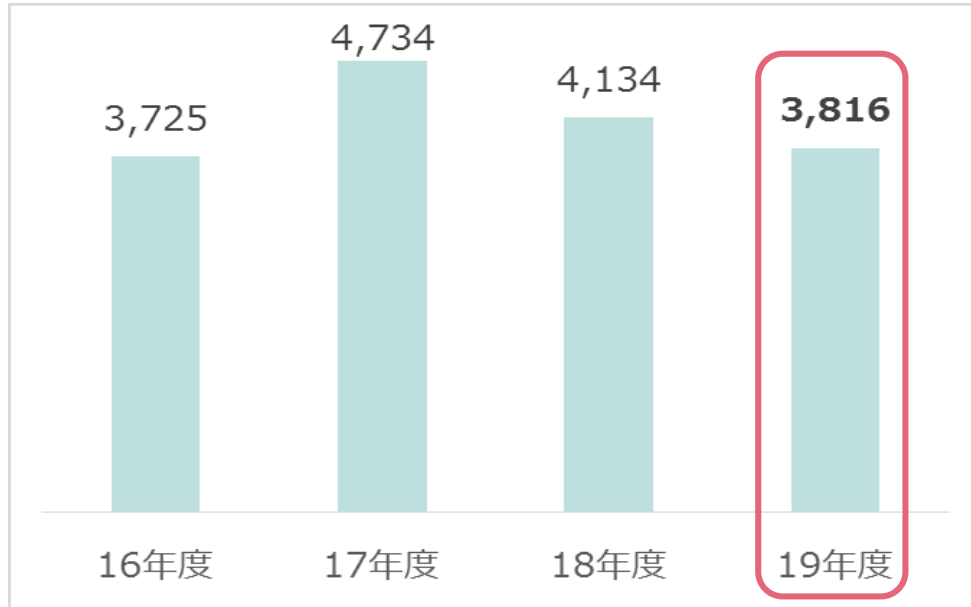
前期比概要

1. 山田製薬／ODM事業大口顧客31.6億円減収で大幅減益
2. 山田製薬／ODM事業新規獲得好調
3. 国内デミ／消費税増税後の消費マインド回復低調もヘアケア、ヘアカラー(新商品)拡販で伸長
4. デミコリア／店販品が市場環境の影響を受けた一方ヘアカラー伸長でカバーし売上高微増。

設備投資／特別損益の概要

- 投資は、計画通り鹿島工場2期工事、ニッカコリア新工場と経営基盤を固める投資が続いたが、これで大型投資は完了。特別損益は、前期の台湾日華化学土地売却利益による特別利益大幅増の影響で特別利益は大幅減。

設備投資額 単位：百万円



国内計：2,202
 ・日華化学 1,898
 鹿島工場2期工事(一部)、国内工場生産設備 等

海外計：1,613
 ・ニッカコリア新工場他 1,304 等

単位：百万円

	2018年度	2019年度	増減額	増減率
特別利益	3,904	357	△3,547	△90.8%
特別損失	183	89	△93	△51.0%

特別利益

- ・退職金給付制度終了益 135
- ・補助金収入 142

特別損失

- ・固定資産除却損 17
- ・減損損失 44

- 営業CFは10.1億円、投資CFは△20.5億円、財務CFは△2.3億円
 期末現預金残高は29.2億円減の63億円、有利子負債は16.5億円増の195億円

単位：百万円

連結CF	18年12月期	19年12月期	増減額
営業CF	2,726	1,012	△1,714
投資CF	-1,312	-2,047	△735
財務CF	-1,928	-229	+1,699

指標	18年12月期	19年12月期	増減額
期末現預金残高	9,234	6,311	△2,922
有利子負債	17,881	19,530	+1,648

【連結CF】 ■ 前期比較

- 営業CF △1,714
 - ・EBITDAの減少 △656
 - ・法人税支払額の減少 +377
 - ・その他 △1,435
- 投資CF △735
 - ・有形固定資産 売却収入△4,266(前期:台湾土地売却あり)
 - ・定期預金増減の影響 +3,674
- 財務CF +1,699
 - ・借入金を増減影響 +2,849
 - ・台湾株式追加取得 △818
 - ・支払配当金の増加 △340

- 減益によりROA,ROE,EBITDAいずれも減少。ROEは前期の台湾日華化学土地売却利益による純利益大幅増の影響あり。減価償却費は主に鹿島工場2工場稼働で増加。自己資本比率は子会社からの配当による非支配株主持分減少により向上。

金額単位：百万円

指 標	18年12月期	19年12月期	増減率・額
ROA(営業利益)	4.1%	2.5%	△1.6ポイント
ROE(当期純利益)	12.6%	4.5%	△8.1ポイント
EBITDA	4,293	3,637	△656
(減価償却費)	1,982	2,234	+252
自己資本比率	35.6%	36.7%	+1.1ポイント

鹿島工場 第2工場本格稼動（8月）

- ① 生産機能集約による合理化・効率化
- ② 重要戦略であるウレタン事業の国内増産体制の確立
- ③ 新規基盤事業創出のためのサプライチェーン工場の構築

総投資額：約36億円

建築面積：3,580㎡（約1,170坪）

延床面積：6,190㎡（約1,880坪）



ニッカ コリア 新工場竣工 (10月)

子会社のNICCA KOREA (ニッカ コリア) 大邱工場
(韓国・テグ市) 敷地内に新工場竣工

■ 目的／グループの重要戦略製品で、需要が高まる
高付加価値なフッ素化学品(撥水剤や表面改質剤
に使用)等の増産体制構築

投資額：約200億ウォン (約18.5億円)

建築面積：902㎡ (約273坪)

延床面積：3,939㎡ (約1,194坪)

稼動開始：2020年2月

● NICCA KOREA 沿革等

1971年／合併会社 三慶日華化学(株)設立、大邱工場完成

1974年／韓国精密化学(株)に商号変更

1992年／フッ素系撥水剤生産開始

2002年／NICCA KOREA CO., LTD.に商号変更

城西工場(現大邱工場) 完成



ベトナム、バングラ販売好調

ニッカ ベトナム 売上高 前年比 +15.2%[※]

- ・高い成長を続ける繊維産業を背景に、既存顧客への深耕と新規開拓
- ・市場や政府から環境負荷低減を求められ苦慮する顧客がいるなかで環境対応の求めにもタイムリーにソリューション提供

バングラデシュ（香港日華化学が販売）

売上高 前年比 +33.4%[※]

- ・バングラデシュの不景気、繊維産業軟調の中、新規開拓が奏功

※現地通貨ベース



SMART DYEING PROCESS 提案スタート



繊維業界全体の大きな課題のひとつ” 環境負荷低減 “に寄与

環境・安全第一

- ・有害化学物質を使用しない環境対応製品の開発
- ・繊維加工の工程合理化
- ・排水・エネルギー消費の削減

これらを目指したソリューションの提案

Smart Dyeing Process

-  **Energy Smart** 「**省エネ**」に効果
-  **Water Smart** 「**節水**」を実現
-  **Work Smart** 「**作業環境改善**」に貢献

日華化学の製品と技術で染色加工場のEHSに関する取り組みに生産効率向上と作業環境の改善で貢献

繊維業界全体のサステナブルな発展へ

ISO45001 取得（12月）

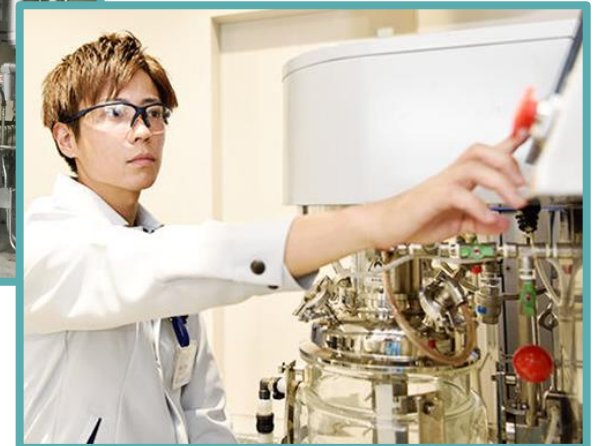
社員一人ひとりが安全意識を高め「グループ全体での労働災害ゼロ」を目指す

ISO45001とは

労働安全衛生マネジメントシステムに関する国際規格。認証取得は、労働安全衛生への当社の取組みが評価されたもの。

取得メリット

- 1.労働安全衛生の管理体制の構築
- 2.労働安全衛生にかかわるコストの削減
- 3.顧客やステークホルダーの信頼性向上



- ・「安全」は企業活動において“最優先”に取り組むべき事項
- ・労働災害を起こさないために ISO45001のPDCAサイクルを活用し安全活動を推進
- ・社員の安全確保と顧客への供給責任を果たしていく

デミ コスメティクス 新ブランド他拡販

「 FLOWDIA(フローディア) 」



デミ コスメティクスのフラッグシップヘアケア。
医学発想で開発した新ケアシステム「バルネイドシステム」で、毛髪のダメージ部分だけを選択的に補修し、ベタつきのない髪本来の質感を実現。

DEMI

「 ELEVATE(エレベート) 」



ビジネスマンをサポートする当社初のメンズブランド。
毛穴汚れを根こそぎ洗い流すシャンプーや、キープ力が選ばれるスタイリング剤は「清潔感」をさらにアップ。

「 FUSIONIST(フュージョニスト) 」



独自の技術で髪をいたわりながら、ダブルレイヤー処方でよりきれいな色、特徴的なツヤ感を表現するヘアカラーブランド。

2020年度 業績予想

- PHASE①「改変期」が終了し、PHASE②「成長期」の1年目となる。
環境変化にポジティブに対応し新しい事業を成長させるスタートの年度。



新中期経営計画は2月20日（木）公表予定

■ 外部環境

○－×：環境・影響の評価

日本経済	－	経済成長は緩やかに減速。新型コロナウイルスの影響が様々な面で懸念。	
海外経済	×	中国	米中貿易摩擦の影響継続に加え新型コロナウイルスによる経済停滞懸念
	×	東アジア	日韓関係の影響継続は不透明
	○	その他アジア	ベトナムは経済成長継続、南西アジアの繊維産業は堅調
	－	米国	米国経済の見通し不明瞭
数値指標 (前年比)	×	為替	円/米ドル・105円の予想
	×	ナフサ	45,000円の予想

■ 当社グループ

○	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的な環境対応意識の高まりで環境配慮型製品が伸長 ・5G、DX加速等による半導体需要回復 ・東京オリンピックによるインバウンド増
×	<ul style="list-style-type: none"> ・2年連続の暖冬の影響懸念(繊維・クリーニング) ・自動車業界の先行き不透明感強い ・国内美容サロン業界伸び悩み、韓国美容サロンで日系メーカーへの影響長期化懸念 ・新型コロナウイルスの影響拡大(中国/外出を控え経済活動低下、子会社稼働停止影響大)

■各事業における販売増により前年度比で増収を見込むも、減価償却費6.6億円増の影響により減益を予想。

単位：百万円

	2019年度 実績	2020年度 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	46,191	48,000	+1,809	+3.9%
営業利益 (営業利益率)	1,395 3.0%	1,000 2.1%	△395	△28.4%
経常利益	1,334	1,000	△334	△25.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	900	500	△400	△44.5%
年間配当（円）	16	16	0	—

※新型コロナウイルスの影響は織り込んでおりません

■ 化学品事業は減価償却費増の影響により増収減益、化粧品は増収増益、その他事業は減収減益を予想。

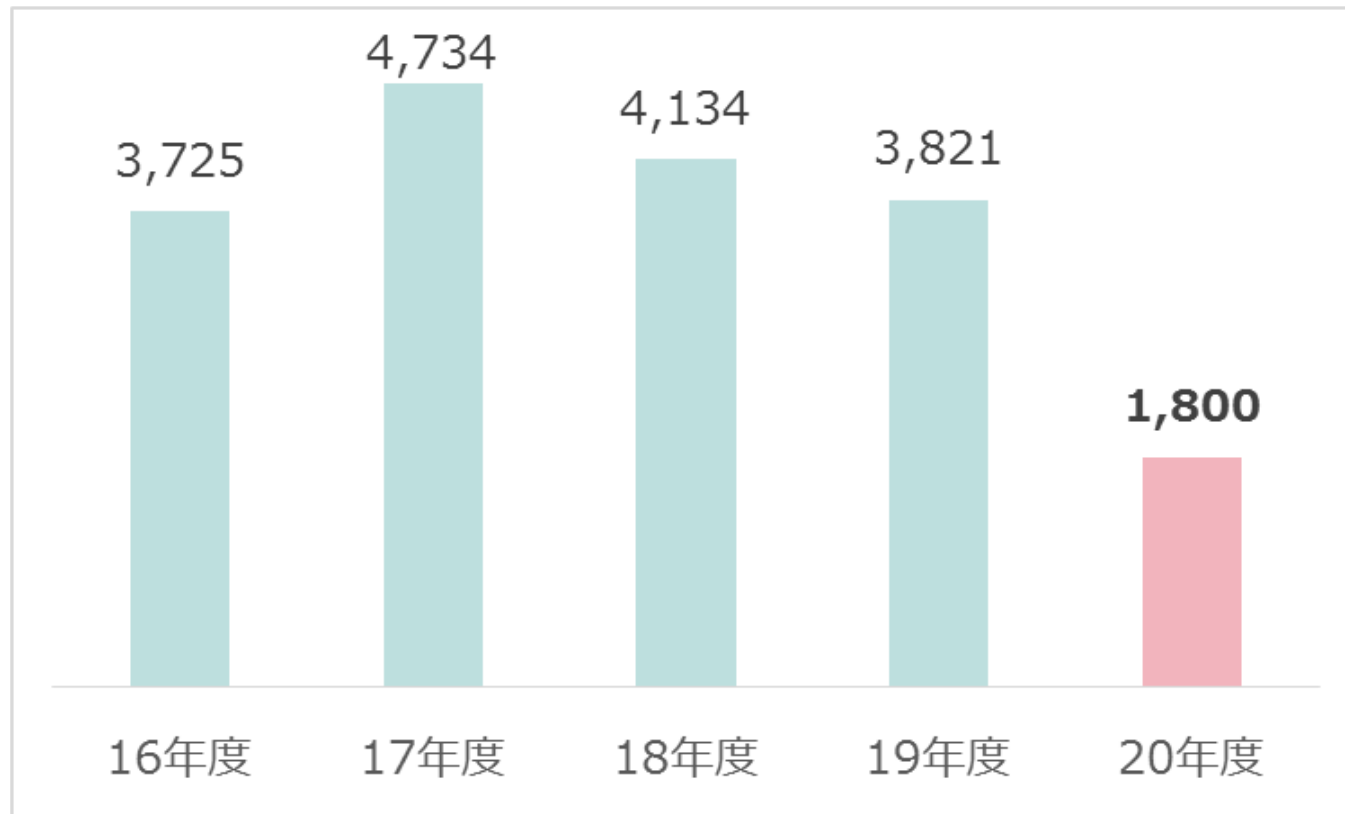
単位：百万円

セグメント	2019年度 実績		2020年度 予想		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	33,890	1,441	35,200	1,000	+1,309	+3.9%	△441	△30.6%
化粧品	11,399	1,687	12,200	1,800	+800	+7.0%	+112	+6.7%
その他	901	99	600	50	△301	△33.4%	△49	△49.8%
消去等	-	-1,831	-	-1,850	-	-	△18	-
合計	46,191	1,395	48,000	1,000	+1,809	+3.9%	△395	△28.4%

※新型コロナウイルスの影響は織り込んでおりません

- 設備投資は「改変期」で大型投資を概ね完了。生産性向上、競争力強化のためのDX関連投資他を推進。

設備投資額（百万円）



化学品	1,200百万円
化粧品	400百万円
共通	200百万円

参考情報

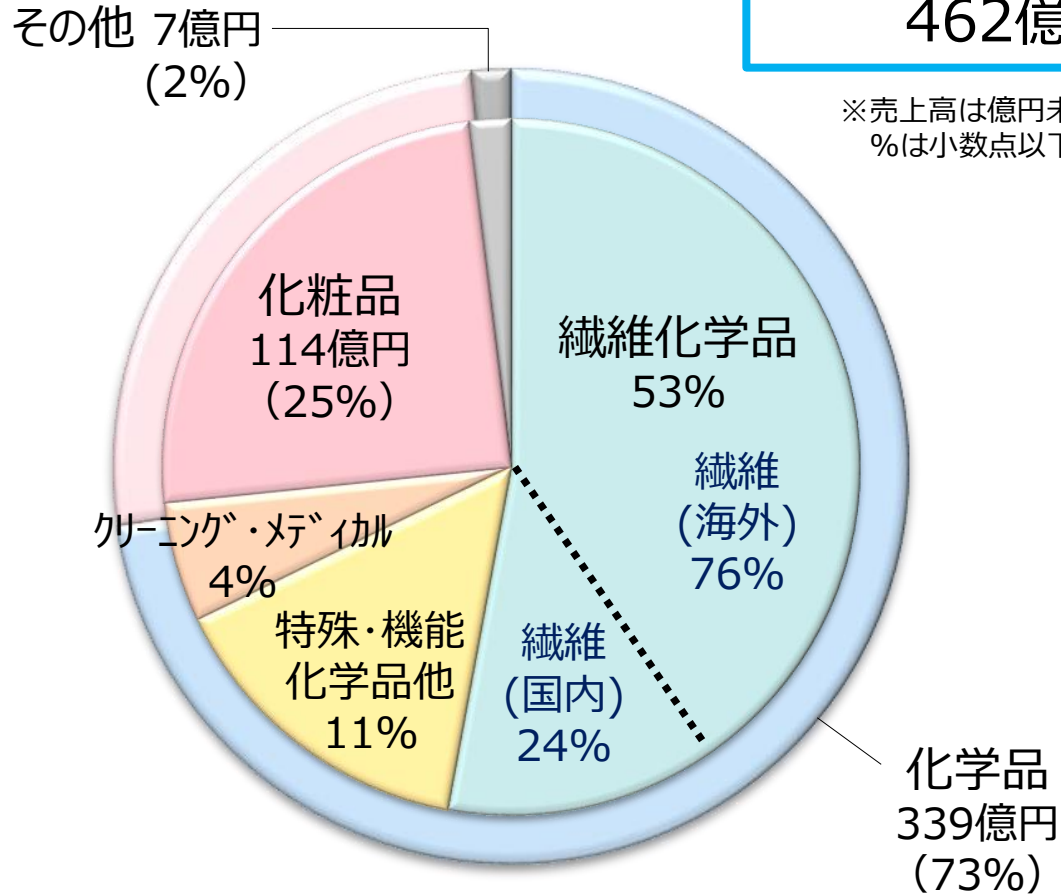
単位：百万円

項目	2012/3	2013/3	2013/12	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12
売上高	31,022	31,651	37,736	39,931	46,527	44,223	48,493	50,188	46,188
EBITDA のれん償却額反映	2,498	3,008	4,606	4,697	4,696	3,174	4,056	4,292	3,635
(EBITDA率)	8.1%	9.5%	12.6%	11.6%	9.9%	7.2%	8.2%	8.5%	7.9%
減価償却費 のれん償却額含む	1,455	1,349	1,584	1,832	2,332	1,716	1,940	1,991	2,240
営業利益	1,044	1,659	3,022	2,865	2,364	1,458	2,116	2,301	1,395
(営業利益率)	3.4%	5.2%	8.0%	7.2%	5.1%	3.3%	4.4%	4.6%	3.0%
経常利益	1,103	1,798	3,390	3,073	2,443	1,588	2,171	2,430	1,334
親会社株式に帰属する当期純利益	495	1,261	2,758	1,447	1,152	347	1,388	2,458	900
1株当り当期純利益(円)	28.11	71.65	152.20	82.22	70.13	22.09	88.48	156.68	57.33
配当金(円)	10	15	16	16	20	20	16	18※	16
自己資本比率	27.8%	32.7%	40.1%	45.2%	36.4%	33.3%	34.4%	35.6%	36.7%
ROE	5.0%	11.4%	18.8%	8.2%	6.2%	2.0%	7.8%	12.6%	4.5%
ROA	3.1%	4.6%	7.6%	6.9%	5.2%	2.9%	4.0%	4.1%	2.5%
研究開発費	1,730	1,807	1,659	1,786	2,096	2,035	2,065	2,219※※	2,350
従業員数(人)	1,158	1,172	1,182	1,228	1,373	1,418	1,472	1,479	1,496

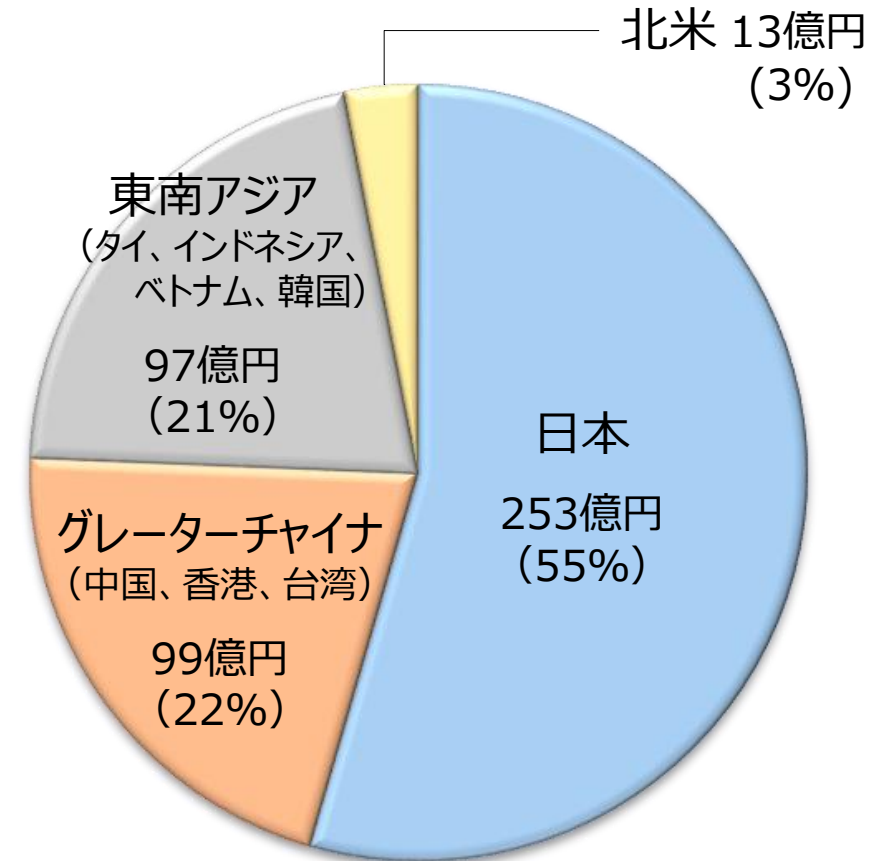
※ 2019年12月期年間配当金のうち期末配当8円については2020年3月26日開催の株主総会で決議予定 ※※ 見込値

■売上高比率は化学品事業で全体の73%、化粧品事業で25%。繊維化学品だけで全体の53%。
その内海外が76%を占める。所在地別では海外比率は45%。

【事業別売上高比率】



【所在地別売上高比率】



商号：日華化学株式会社（証券コード 4463）

本社：福井県福井市文京4丁目23-1

創立：1941（昭和16）年9月15日

資本金：28億8,985万円

発行済株式数：1,771万株

決算期：12月31日

従業員数：連結／1,496名 単体／595名

（2019年12月31日現在）

事業内容：繊維を主とする各種産業用界面活性剤および化学品、化粧品等の製造・販売

上場証券取引所：東証1部、名証1部

Activate Your Life



この資料には、2020年2月13日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

<お問合せ先>

日華化学株式会社 戦略企画本部 IR担当

TEL:(0776)25-8584 (直通) FAX:(0776)21-9227

E-mail : matsushima@niccachemical.com